



## 私のふるさと

石田 隆久

皆さんの記憶に新しい 2020.08.17 午後 0 時 10 分、浜松市中区で国内観測史上最高気温と並ぶ 41.1℃を記録しました。この浜松市中区が「私のふるさと」です。過去の 41.1℃は埼玉県熊谷市で 2018 年 7 月 23 日に観測されています。浜松市は人口約 80 万人の政令指定都市です。静岡県沿岸部に位置し、海岸沿いに広がる中田島砂丘はアカウミガメの産卵地です。ランドマークとしてはハーモニカをモチーフにした「超高層ビル・アクトタワー」が浜松駅前であり、その近くには世界中の楽器を展示している浜松市楽器博物館があります。郊外には女性樹木医第一号が理事長をしている「はままつフラワーパーク」もあります。浜松市には全市民が熱狂する「浜松まつり」が、毎年5月のゴールデンウィーク、3日～5日に開催されます。昼は前述の中田島砂丘での子供の誕生を祝った大凧揚げです。夜は各町の誇る御殿屋台の引き回しが、浜松駅前を中心として夜遅くまで演じられます。御殿屋台の上でおはやしが三味線太鼓などにぎやかに演奏されます。それは豪華絢爛けんらんです。また浜松には徳川家康の出世城が再建されています。若き徳川家康が、織田信長に恭順を示すために奥さんや長男を亡くしてしまう戦国時代のおごたらしい現実が広がっています。そのために大御所であった静岡市とは一味違う徳川家康感が浜松市民にはあるようです。



と友人との懐かしい思い出。

中学時代の塾の同窓会、「はままつフラワーパーク」玄関で徳川家康マスコット

工業の面では、浜松市は三大メーカー、ヤマハ、スズキ、ホンダの工場があり、楽器、オートバイ、車の一大生産地です。いわゆる工業都市です。私はそのなかのヤマハに所属し、今回のコロナ禍で日本は遅れていることが再確認されたデジタル分野を担当しました。コンピューターの草分け時代で働き方は猛烈で現代では働き方改革が要求される典型的な分野でした。しかしそのためもあり、出張はアメリカ、中国などもありましたが、転職は一度も経験しませんでした。愚直な技術屋として生産管理のデジタル化一筋に過ごしてきました。65歳までは仕事中心の人生でした。その後、理工バカ的な生活を打破しようと、京都・奈良検定へと幅を広げました。また古代史などに興味があり系統的に学びたいと考え奈良大学の通信学部の3年に編入しました。卒論は浜松市からたくさん出土している「銅鐸」をテーマにチャレンジしました。銅鐸は有名な「卑弥呼」の時代に廃れていく祭器でした。少し遅かったのですが72歳を過ぎたころ、社会人時代に一度も転職・転居をしていなかったのが、思い切って奈良大学時代に好きになった奈良への転居を決断しました。気候も温暖で住み慣れた浜松を離れることには勇気が必要でした。スマホやパソコンをお使いの方はよくわかると思いますが、いわゆる人生に「再起動」をかけたのです。奈良に転居したのは2017年6月です。奈良に来て3年がやっと過ぎたところでした。今年になりコロナ禍になるまでは、京都、奈良を満喫していました。ここにきて、仏教文化講演会や各種イベントも中止ばかりです。そこで興福寺仏教文化講座で感銘を受けた南都仏教の一つ「法相宗」の唯識論を独学でボソボソと進めています。唯識論は宗教ではなく一つの思想・哲学であると考えています。利他行が深層の心を清らかにする。その教えを実践すべく「奈良・人と自然の会」で、ボランティアによって、少しでも皆さまのお役に立てればと願っています。